

六ツ美中部学区に導入するデマンド型交通の運行システム選定について

各自治体で導入されているデマンド型交通の運行システムを比較し、六ツ美中部学区に導入する運行システムを選定した。
検討した各事業主体の運行システムに差異はあるものの、どのシステムも六ツ美中部学区での運用は可能である。その中で今回、おでかけ機会を創出する情報発信や民間主導のビジネスモデル等の取組み実績が評価できるアイシン精機㈱「チョイソコ」の運行システムを採用する。

【運行情報基本システム比較】

事業主体 比較項目	A社		アイシン精機㈱ 「チョイソコ」		B社	
電話受付の可否	受付可能 (対応するオペレーターは運行事業者)	○	受付可能 (事業主体自らオペレーターとなり停留所及びその先の目的地まで案内)	◎	受付可能 (対応するオペレーターは運行事業者)	○
アプリ受付の可否	受付可能	○	受付可能	○	受付可能	○
お出かけ機会を創出する利用者への情報提供	現在は実施していないが検討中	△	月に一回程度 チョイソコ通信を発行	○	アプリ内で地域と連携した情報提供	○
ルート自動検索の可否	自動検索可能	○	自動検索可能	○	自動検索可能	○
停留所設置企業の協賛金制度活用実績	活用実績なし	×	活用実績あり	○	活用実績はないが今後活用予定あり	△
【総合評価】 (六ツ美中部学区での運用の可否)	運行可能		運行可能かつ 取組み実績充実		運行可能	
	○		◎		○	

【アイシン精機㈱豊明市における取組み実績】

事業主体

特徴

A社

アイシン精機㈱「チョイソコ」

B社

充実した乗降データ等を基にした最適なルート設定

おでかけ機会に繋げ、心身の健康促進を実現

A I (人工知能)を活用した最適な乗り合わせ

アイシン精機㈱「チョイソコ」取組み実績【豊明市事例】

① お出かけ機会を創出する情報発信

アイシン精機㈱が定期的に発行する「チョイソコ通信」により、チョイソコを利用して参加できるイベントやスポンサー企業のお得な情報等を紹介する。

本市福祉部局主体のイベント等とも連携可能であり、アイシン、自治体、スポンサー企業、そして地域が一体となり、健康増進及び地域コミュニティ活性化を推進できる。

自治体様
イベント例

事業者様
広告例

事業者様
広告例

チョイソコ通信による情報発信



地域における各種イベント等と連携

② 民間主導のビジネスモデル

停留所が設置される企業や自治体 がスポンサーとなり、協賛金を出資する民間主導のビジネスモデル。企業等の停留所増加による利用者の利便性向上はもちろん、スポンサー企業の集客増加等、メリットが多いビジネスモデルである。

エリアスポンサー協賛型のビジネスモデル

チョイソコは民間企業が事業主体になるのが特徴です。
(これまでの地域公共交通は自治体もしくは福祉事業者が主体)
主体的な企画や技術の投入が可能になります。

停留所設置

協賛金

実施主体
アイシン精機株式会社

会員登録
乗車受付

運行主体

乗車料金

エリアスポンサー
スギ薬局
AIGroup
JTB

上記は豊明市の事例です。
事業主体は自治体等との
協議により変更します。

エリアスポンサー協賛型のビジネスモデル